

警報 警報 警報 警報 警報 警報 警報 警報 警報

26150-1434  
令和元年8月19日

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県農政水産部長

令和元年度病害虫発生予察警報第1号について

令和元年度病害虫発生予察警報第1号を発表したので送付します。

## 令和元年度病害虫発生予察警報第1号

令和元年8月19日  
宮崎県

病害虫名 トビイロウンカ

作物名 普通期水稻

1. 発生地域 県内全域

2. 発生時期 ー

3. 発生程度 多

### 4. 警報発令の根拠

(1) 県では注意報第4号（令和元年8月1日付け）を発表し、トビイロウンカに対する防除徹底を啓発したところである。しかし、8月中旬に実施した巡回調査の結果、依然として発生地域は拡大し、生息密度も高まっている（図1、2）。

(2) 8月中旬の巡回調査における発生面積率75.6%は過去10年間で最も高く、坪枯れ等の被害が発生した平成25年度（トビイロウンカに対する警報を発表）よりも高い。株当たり虫数1.36頭は過去10年間で平成25年度に次いで多い（図3、4）。特に西諸県における生息密度は急激に高まっており、発生面積率100%、株当たり虫数5.81頭となっている（表1）。

(3) 産卵数の多い短翅型雌成虫の株当たり虫数0.14頭は過去10年間で最も多い（図5）。特に西諸県では、短翅型雌成虫の株当たり虫数が0.47頭となっており、要防除水準を大きく上回っている（表1、要防除水準：8月上旬～9月中旬の短翅型雌成虫株当たり0.2頭）。

(4) 鹿児島地方气象台が8月8日に発表した向こう1か月の気温（8月10日～）は高い確率が70%、降水量は平年並または少ない確率が70%と予想されていることから、本種の増殖に好適な状況が続くと考えられる。

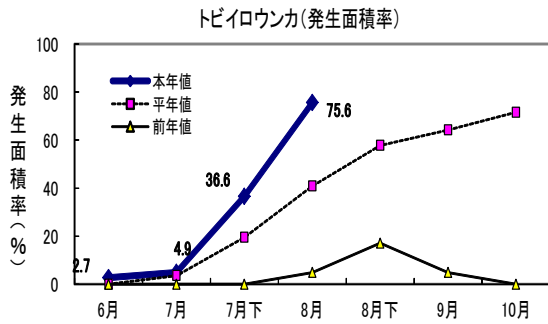


図1. 発生面積率

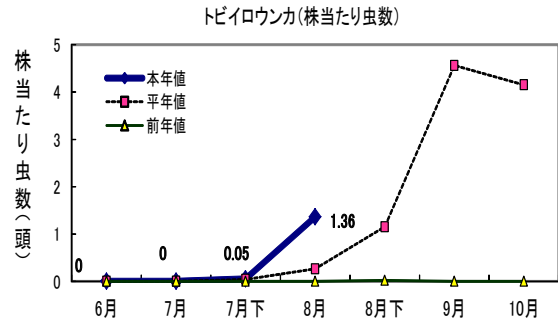


図2. 株当たり虫数

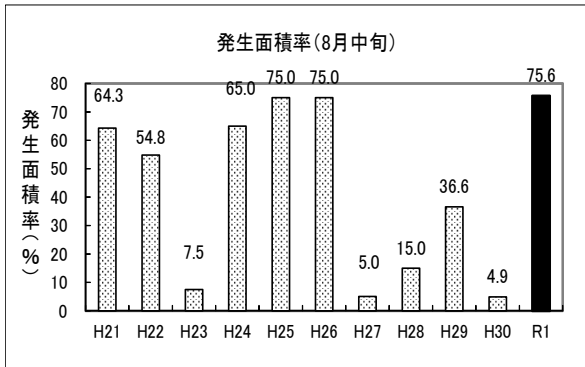


図3. 発生面積率の年次推移推移

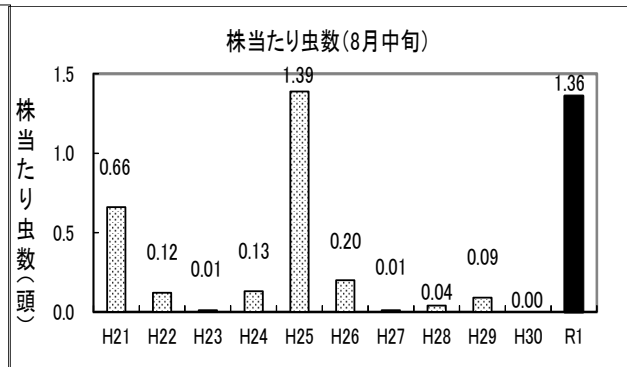


図4. 株当たり虫数の年次推移

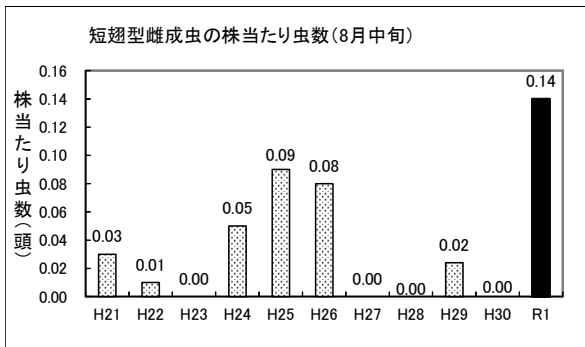


図5. 短翅型雌成虫の株当たり虫数

表1. 地域ごとのトビイロウンカ発生状況

	調査地点数	発生面積率 (%)	株当虫数 (頭)	短翅型雌成虫の株当虫数 (頭)	トビイロウンカ成虫短翅雌率 (%)
県北	18	61.1	0.17	0.04	74.1
東諸	5	100.0	0.55	0.14	81.8
北諸	10	70.0	0.35	0.05	54.5
西諸	8	100.0	5.81	0.47	89.4
県全体	41	75.6	1.36	0.14	81.7

要防除水準：短翅型雌成虫0.2頭／株

#### 4. 防除上の注意

(1) トビイロウンカは水田に定着後2～3世代増殖を繰り返す、急激な密度上昇により収穫期頃に大きな被害を及ぼす。防除適期は幼虫期前半であるが、地域やほ場によって発生状況にばらつきがあるので、ほ場をよく観察し、水稻の株元に成虫及び幼虫を確認した場合は速やかに防除を行う（写真2参照）。ただし、注意報

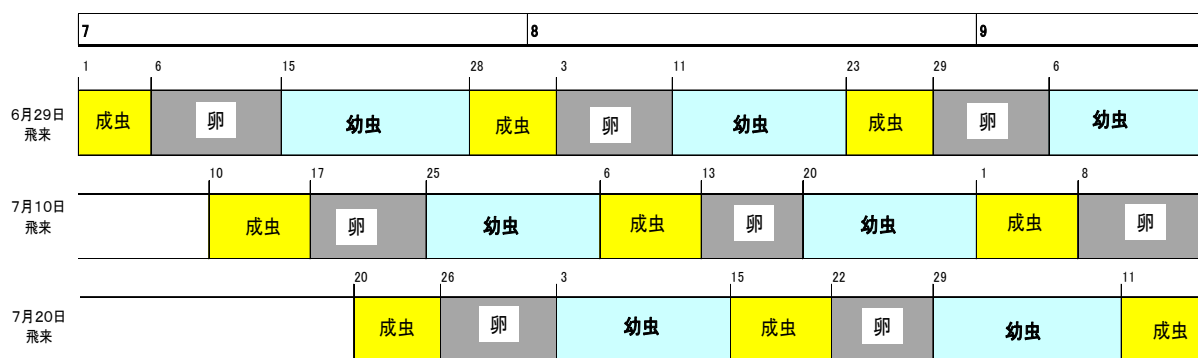
4号の発表以降に本田防除を行っていないほ場については、直ちに防除を行う（図6参照）。

(2) 本年は複数回の飛来が確認されているため、様々な生育ステージのトビイロウンカが混在している。既に本田防除を行ったほ場においても、その後の発生状況を確認し、密度が高ければ直ちに追加防除を行うなど、防除の徹底を図る。

(3) 薬剤が本種の生息する株元まで十分到達しない場合には、十分な防除効果が得られない恐れがあるので丁寧な散布を行う。

(4) 飼料用稲の防除に当たっては、「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」（平成26年12月第6版、平成30年12月19日一部改正）及び「飼料として使用する粳米への農薬の使用について」（平成21年4月20日付け21消安第658号、21生畜第223号関係課長通知、平成30年12月19日一部改正）、「飼料の有害物質の指導基準及び管理基準について」（昭和63年1月14日付け63畜B第2050号畜産局長通知、平成30年12月19日一部改正）に沿って、適期防除に努める。

図6. トビイロウンカの発生世代予測図（2019年8月6日作成）



1. 6月29日、7月10日、7月20日頃に飛来したウンカを起点とし、有効積算温度と宮崎市のアメダスデータ（8月5日まで実測値、それ以降は平年値）を用いて作成した。
  2. 各飛来波に対する防除の重要度は、移植時期によって異なる。
  3. 本虫に対しては幼虫ふ化揃い期の防除効果が最も高い。
  4. 気象経過に応じて、実際のトビイロウンカの生育ステージと異なる場合がある。
- ※発生世代予測は「有効積算温度による海外飛来性害虫の発生予測支援システム Ver. 600 (S. Teramoto)」により算出。

- ・その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- ・6月1日から8月31日の3か月間、農薬危害防止運動を実施しています。ラベル表示の内容を十分に確認し、農薬使用基準を守って農薬散布を行い、危害防止に努めましょう。

＜連絡先＞  
 宮崎県農業経営支援課 戸高、田村  
 TEL: 0985-26-0068  
 FAX: 0985-26-7325  
 メールアドレス: nogyokeishien@pref.miyazaki.lg.jp

過去のトビイロウンカによる被害状況



写真1. トビイロウンカによる坪枯れ (H25)  
(※被害がほ場全体に拡がり、反枯れ状態となっている)

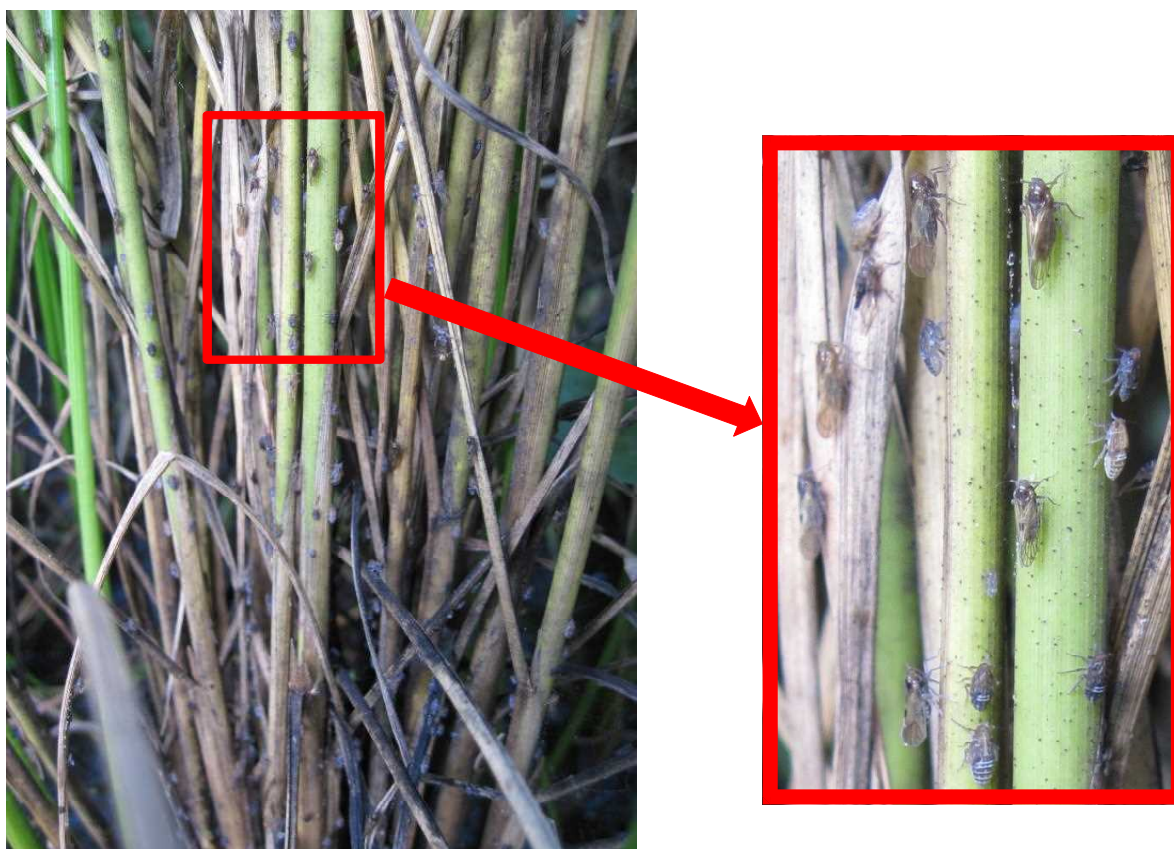


写真2. 株元を集中加害するトビイロウンカの成幼虫